



2023年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2022年11月14日

上場会社名 新田ゼラチン株式会社 上場取引所 東
 コード番号 4977 URL <http://www.nitta-gelatin.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 尾形 浩一
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役執行役員管理本部長 (氏名) 長岡 令文 TEL 072-949-5381
 四半期報告書提出予定日 2022年11月14日 配当支払開始予定日 2022年12月5日
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第2四半期の連結業績（2022年4月1日～2022年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第2四半期	19,179	29.0	1,360	129.3	1,625	133.5	911	143.6
2022年3月期第2四半期	14,863	△2.2	593	△8.4	696	7.4	374	6.3

(注) 包括利益 2023年3月期第2四半期 2,183百万円 (168.6%) 2022年3月期第2四半期 812百万円 (52.1%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第2四半期	50.33	—
2022年3月期第2四半期	20.69	—

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第2四半期	40,478	22,596	48.5
2022年3月期	37,410	20,562	48.3

(参考) 自己資本 2023年3月期第2四半期 19,637百万円 2022年3月期 18,082百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	7.00	—	7.00	14.00
2023年3月期	—	7.00	—	—	—
2023年3月期（予想）	—	—	—	9.00	16.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：有

3. 2023年3月期の連結業績予想（2022年4月1日～2023年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	39,000	22.7	2,600	66.6	2,900	67.2	1,400	92.7	77.21

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 一社（社名）、除外 一社（社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年3月期2Q	18,373,974株	2022年3月期	18,373,974株
② 期末自己株式数	2023年3月期2Q	240,939株	2022年3月期	268,739株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年3月期2Q	18,113,178株	2022年3月期2Q	18,087,707株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方	4
3. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(追加情報)	10
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間(2022年4月1日～2022年9月30日)における世界経済は、新型コロナウイルス感染症の影響が軽減し緩やかな回復基調が続いた一方、ロシアによるウクライナ侵攻の長期化にインフレ懸念が加わり、先行きの不透明感が強まりました。また、世界的なサプライチェーンの混乱、原材料費やエネルギー価格の高騰が続くなど当社グループを取り巻く環境は厳しい状況で推移しました。

当社グループは2022年6月に、10年後のビジョンを「コラーゲンを通じて人々のQOL向上に貢献」することとし、その具体的な施策を「ゼラチンの汎用品から付加価値の高いコラーゲンペプチドへのシフトを進め、成長が見込める市場に経営資源を重点配分し、高収益企業に生まれ変わる」とする事業戦略を発表しました。

この事業戦略の下、フードソリューション、ヘルスサポート、スペシャリティーズの各領域にて、お客様の旺盛な需要に応えるべく製品の安定供給に努めると共に、適正価格への改定に取り組みました。ヘルスサポートにおいては、一般消費者向けコラーゲン健康食品のリブランディング並びに広告宣伝の強化により、拡販に努めました。また、投資家の皆様に当社の事業内容や事業戦略をより深くご理解いただけるよう、新たにアナリストレポートによる情報発信をする等、IR活動強化にも取り組みました。

以上の結果、各領域での売上伸長に加え、海外売上に対する為替影響もあり売上高は19,179百万円(前年同期比29.0%増加)となりました。海外での売上伸長等により営業利益は1,360百万円(前年同期比129.3%増加)、為替差益等の計上により経常利益は1,625百万円(前年同期比133.5%増加)となり、その結果、親会社株主に帰属する四半期純利益は911百万円(前年同期比143.6%増加)となりました。

当社グループは、コラーゲン事業の単一セグメントを適用しておりますが、販売区分別の概況は次のとおりです。

(フードソリューション)

フードソリューションにおいては、日本で販売が好調であったことに加え、北米地域での販売増加もあり全体の売上高は増加しました。

日本では、顧客のグミキャンディー販売が引き続き好調なことから、売上高が増加しました。また外食産業向けの需要回復に伴う業務用スープ・調味料用途への販売増加や、業務用における施設給食向け等への拡販が奏功し、売上高が増加しました。一方、主要顧客の販売伸び悩みにより、コンビニエンスストア向け総菜用途への売上高は減少しました。

海外では、北米地域において食品用途の需要は堅調で売上高が増加しました。

その結果、フードソリューション全体の売上高は7,539百万円(前年同期比24.0%増加)となりました。

(ヘルスサポート)

ヘルスサポートにおいては、海外で美容用コラーゲンペプチドの販売が伸長し、全体の売上高は増加しました。

日本では、顧客のコラーゲン商品の販売の伸び悩みにより美容用コラーゲンペプチドの売上高は前年同期並みとなりましたが、カプセル用ゼラチンの売上高は堅調な需要により増加しました。また、一般消費者向けコラーゲン健康食品を通信販売している直販事業においては、広告宣伝強化が成果に結びつき、売上高が増加しました。

海外では、北米地域において旺盛な需要によりコラーゲンペプチドの販売が好調でした。また、アジア地域においては機能性を訴求した美容用コラーゲンペプチドの販売が堅調でした。さらに、北米、インドにおいてコロナ禍で健康促進や予防意識の高まりにより、カプセル用ゼラチンの売上高が増加しました。

その結果、ヘルスサポート全体の売上高は9,098百万円(前年同期比27.9%増加)となりました。

(スペシャリティーズ)

スペシャリティーズにおいては、飼料や肥料向け需要の高まりと市況価格により副産物であるリン酸カルシウム等の売上高が引き続き増加し、全体の売上高は2,542百万円(前年同期比52.4%増加)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における資産は、前連結会計年度末比3,067百万円増加の40,478百万円となりました。主な要因は、現金及び預金が878百万円減少した一方で、受取手形及び売掛金が426百万円、棚卸資産が2,569百万円及び有形固定資産が500百万円増加したことによるものです。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末比1,033百万円増加の17,882百万円となりました。主な要因は、その他の流動負債が1,086百万円減少した一方で、支払手形及び買掛金が1,052百万円、未払法人税等が266百万円及び長期借入金（1年内返済予定を含む）が728百万円増加したことによるものです。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末比2,033百万円増加の22,596百万円となりました。主な要因は、利益剰余金が784百万円、為替換算調整勘定が836百万円及び非支配株主持分が478百万円増加したことによるものです。

なお、自己資本比率は48.5%（前連結会計年度末48.3%）となりました。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末比897百万円減少の2,133百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動により獲得した資金は490百万円（前年同四半期は332百万円の獲得）となりました。主な要因は、税金等調整前四半期純利益1,619百万円、減価償却費703百万円及び棚卸資産の増加額1,863百万円によるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動により使用した資金は1,678百万円（前年同四半期は522百万円の使用）となりました。主な要因は、有形固定資産の取得による支出1,647百万円によるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動により獲得した資金は211百万円（前年同四半期は1,044百万円の使用）となりました。主な要因は、長期借入れによる収入1,716百万円、長期借入金の返済による支出1,027百万円、短期借入金の純減額226百万円及び配当金の支払額126百万円によるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年3月期の連結業績予想及び配当予想につきましては、本日公表の「2023年3月期 第2四半期（累計）連結業績予想値と実績値との差異、通期連結業績予想の修正及び配当予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

なお、実際の業績等は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社グループは、連結財務諸表の期間比較可能性及び企業間の比較可能性を考慮し、当面は、日本基準で連結財務諸表を作成する方針であります。

なお、今後につきましては、当社経営方針及び国内外の諸情勢を考慮の上、国内同業他社の I F R S（国際財務報告基準）の適用動向等も踏まえ、I F R S（国際財務報告基準）の適用について検討を進めていく方針であります。

3. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,046	2,167
受取手形及び売掛金	7,389	7,815
商品及び製品	5,955	6,715
仕掛品	1,396	1,550
原材料及び貯蔵品	3,104	4,760
その他	588	887
貸倒引当金	△16	△8
流動資産合計	21,465	23,888
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	3,409	3,685
機械装置及び運搬具(純額)	2,474	2,622
その他(純額)	4,532	4,608
有形固定資産合計	10,416	10,916
無形固定資産		
のれん	232	243
その他	275	276
無形固定資産合計	507	519
投資その他の資産		
投資有価証券	3,363	3,419
その他	1,775	1,871
貸倒引当金	△117	△138
投資その他の資産合計	5,021	5,153
固定資産合計	15,945	16,589
資産合計	37,410	40,478

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,745	3,797
短期借入金	2,271	2,323
1年内返済予定の長期借入金	1,909	2,059
未払法人税等	171	437
賞与引当金	224	209
その他	3,399	2,313
流動負債合計	10,721	11,140
固定負債		
長期借入金	3,573	4,151
退職給付に係る負債	1,560	1,630
その他	992	958
固定負債合計	6,126	6,741
負債合計	16,848	17,882
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,144	3,144
資本剰余金	2,965	2,964
利益剰余金	10,181	10,966
自己株式	△179	△160
株主資本合計	16,112	16,915
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,231	1,199
繰延ヘッジ損益	46	71
為替換算調整勘定	540	1,376
退職給付に係る調整累計額	151	74
その他の包括利益累計額合計	1,969	2,722
非支配株主持分	2,479	2,958
純資産合計	20,562	22,596
負債純資産合計	37,410	40,478

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
売上高	14,863	19,179
売上原価	11,687	14,576
売上総利益	3,175	4,603
販売費及び一般管理費	2,582	3,243
営業利益	593	1,360
営業外収益		
受取利息	1	1
受取配当金	39	33
受取賃貸料	28	29
為替差益	69	275
その他	29	34
営業外収益合計	169	373
営業外費用		
支払利息	53	72
持分法による投資損失	8	29
その他	4	5
営業外費用合計	66	107
経常利益	696	1,625
特別利益		
固定資産売却益	0	0
特別利益合計	0	0
特別損失		
固定資産売却損	0	—
固定資産除却損	52	6
特別損失合計	52	6
税金等調整前四半期純利益	644	1,619
法人税等	190	424
四半期純利益	453	1,195
非支配株主に帰属する四半期純利益	79	283
親会社株主に帰属する四半期純利益	374	911

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
四半期純利益	453	1,195
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	256	△31
繰延ヘッジ損益	△16	21
為替換算調整勘定	38	958
退職給付に係る調整額	15	△87
持分法適用会社に対する持分相当額	65	126
その他の包括利益合計	359	987
四半期包括利益	812	2,183
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	734	1,664
非支配株主に係る四半期包括利益	78	518

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	644	1,619
減価償却費	665	703
のれん償却額	23	28
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△0	△9
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△35	△27
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	△69	0
受取利息及び受取配当金	△41	△34
支払利息	53	72
為替差損益 (△は益)	△6	△95
持分法による投資損益 (△は益)	8	29
有形固定資産売却損益 (△は益)	△0	△0
固定資産除却損	52	6
売上債権の増減額 (△は増加)	561	79
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△732	△1,863
仕入債務の増減額 (△は減少)	△461	490
未払消費税等の増減額 (△は減少)	28	△0
その他	△231	△266
小計	459	731
利息及び配当金の受取額	41	35
利息の支払額	△52	△71
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△116	△205
営業活動によるキャッシュ・フロー	332	490
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△12	△32
定期預金の払戻による収入	26	16
有形固定資産の取得による支出	△470	△1,647
有形固定資産の売却による収入	1	0
無形固定資産の取得による支出	△14	△8
有形固定資産の除却による支出	△47	—
投資有価証券の取得による支出	△4	△5
その他	0	△0
投資活動によるキャッシュ・フロー	△522	△1,678
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	258	△226
長期借入れによる収入	—	1,716
長期借入金の返済による支出	△1,142	△1,027
セール・アンド・リースバック取引による収入	77	21
リース債務の返済による支出	△98	△105
配当金の支払額	△108	△126
非支配株主への配当金の支払額	△30	△39
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,044	211
現金及び現金同等物に係る換算差額	10	79
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△1,225	△897
現金及び現金同等物の期首残高	3,998	3,030
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,772	2,133

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2022年7月21日開催の取締役会決議に基づき、譲渡制限付株式報酬として2022年8月5日を期日とする自己株式の処分(27,800株)を行いました。

この結果、当第2四半期連結累計期間において資本剰余金が1百万円、自己株式が18百万円それぞれ減少しております。

(追加情報)

前連結会計年度の有価証券報告書の(重要な会計上の見積り)に記載した新型コロナウイルス感染症の影響に関する仮定について重要な変更はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自2021年4月1日 至2021年9月30日)

当社グループは、コラーゲン事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

II 当第2四半期連結累計期間(自2022年4月1日 至2022年9月30日)

当社グループは、コラーゲン事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。